

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K02471

研究課題名(和文)シェイクスピア作品におけるグローバル経済の影響と物質文化への人々の関心

研究課題名(英文)Material Culture in Shakespeare's Plays: The Impact of the Global Economy

研究代表者

勝山 貴之(Takayuki, Katsuyama)

同志社大学・文学部・教授

研究者番号：30204449

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：16・17世紀の世界貿易の生産と輸出の立役者は、中国をはじめ、インド、東南アジアなど東洋の諸国であり、東洋から輸出される品々に、ヨーロッパ市場は魅了され、それらを買付けするために、商人たちはアジアへの通商路を、陸に海にと探し求めた。近代初期のヨーロッパはグローバル経済の中心ではなく、むしろ東洋の築いた巨大な経済圏に参入したのである。本研究は、そうしたグローバル経済とシェイクスピア演劇の関係を探求しようとするものである。シェイクスピア劇の中では、しばしば当時の交易品への言及がなされる。東洋との交易品への言及をとおして、作品におけるグローバル経済の影響と人々の物質文化への関心の解明に取り組んだ。

研究成果の学術的意義や社会的意義

16世紀のキリスト教ヨーロッパは、アジアを中心とした経済圏に参入することによって、まさにグローバル経済に巻き込まれていったのであり、その理解なくしては英国社会および経済の実態も十分に把握することはできない。

キリスト教圏を世界の中心に据えようとする従来の批評動向に一石を投じ、アジア経済圏を中心として、イスラム教圏、キリスト教圏、そして更には新大陸をも包括するグローバル経済圏を念頭におきながら、交易品の流通と消費の様子を英国社会内に探ることにより、初期近代の英国人の物質文化(Material Culture)への関心とシェイクスピア演劇の関係を探った。

研究成果の概要(英文)： In the 16th and 17th centuries, the production and export of goods from Asian countries such as China, India, Thailand (Siam), and Indonesia, played a leading role in world trade. European markets eagerly sought goods from the East, and merchants just as eagerly sought trade routes to Asia, by land and sea, the better to provide them. In the early modern period, Europe was therefore less the center of the global economy than part of vast economic zone characterized by the East. My project seeks to explore the relationship between this global economy and Shakespeare's plays.

In Shakespeare's plays, we find many references to goods frequently traded at the time. By examining references to goods from the Orient (silk fabrics, carpets, indigo, spices, porcelain, etc.), I have tried, in my research, to clarify two things: the influence of the global economy on Shakespeare's plays, and people's interest in the material culture the plays exhibit.

研究分野：英文学

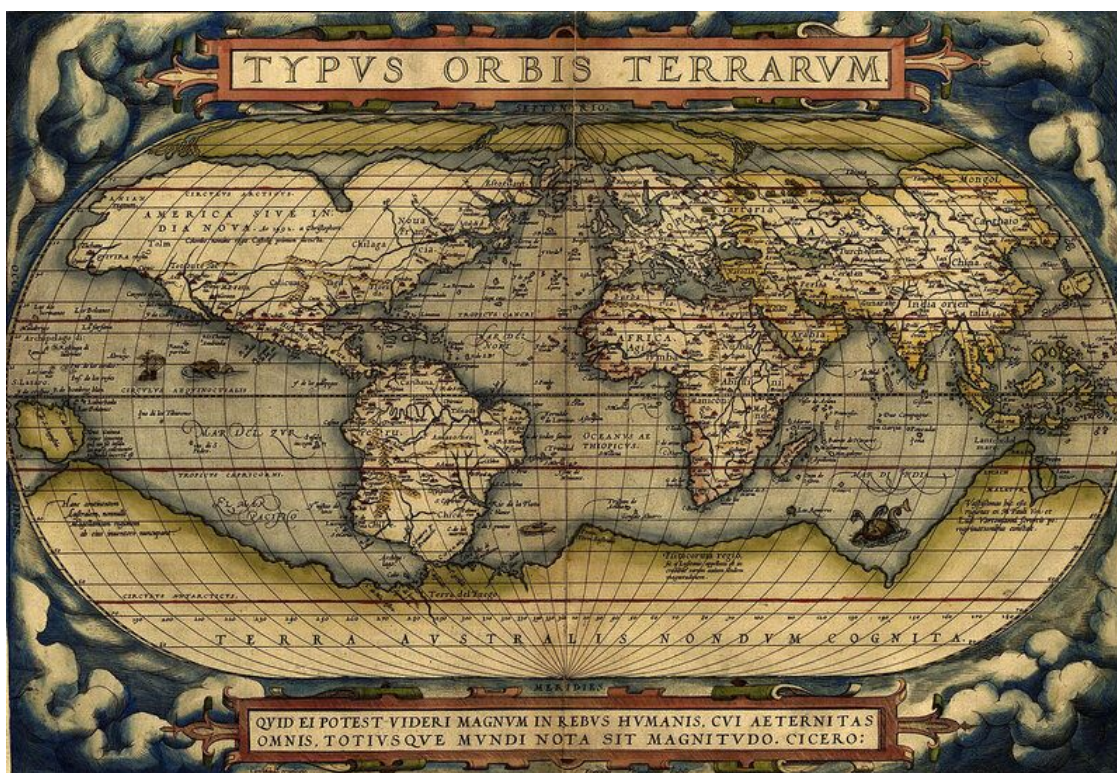
キーワード：シェイクスピア 初期近代英国演劇 東洋 物質文化 グローバル経済

1. 研究開始当初の背景

この研究の目的は、科研費のもとでおこなっていた「シェイクスピア演劇とイスラム世界」の研究を更に発展させ、オスマン・トルコ帝国に代表されるイスラム世界との交易のみならず、グローバル経済とシェイクスピア演劇の関係を探求しようとするものである。当時のキリスト教国とイスラム教国の関係を研究するなかで、東洋と西洋を結びつける経済の重要性に思い至った。東洋と西洋を結ぶグローバル経済の発達と、その経済網に参入しようとするロンドンの急速な経済的成長は、その時代を生きる人々の心性や価値観にも大きな変化をもたらしたに違いない。そしてその変化は、時代を代表するエンターテインメントであった演劇の中にも必ず読み取れるはずであるというのが、研究当初の着想であった。

2. 研究の目的

16・17世紀の世界貿易の生産と輸出の立役者は、中国をはじめ、インド、東南アジアなど東洋の諸国であった。東洋から輸出される品々に、ヨーロッパ市場は魅了され、それらを買付けするために、商人たちはアジアへの通商路を、陸に海にと探し求めた。初期近代のヨーロッパはグローバル経済の中心ではなく、むしろ東洋の築いた巨大な経済圏に参入したと考えられる。シェイクスピア劇では、しばしば当時の交易品への言及がなされる。東洋との交易品への言及をとおして、演劇作品におけるグローバル経済の影響と人々の物質文化への関心の解明に取り組んでいくことが目標である。



(Theatrum Orbis Terrarum by Abraham Ortelius, 1570)

3. 研究の方法

日本国内で収集可能な初期近代における世界貿易の関係資料を購入、あるいはインター・ライブラリー・サービスを使って国立大学図書館・私立大学図書館から取り寄せ、可能な限りの資料収集に従事した。またシェイクスピア演劇関連の資料についても、物質文化との関連にふれた研究を中心に資料収集を行った。当初は資料収集の場を海外にも広げる予定であったが、これはCOVID-19によるパンデミックの影響で海外渡航が禁止され、残念ながら計画を貫徹することはできなかった。研究の進展とともに、研究成果を関西シェイクスピア研究会、九州シェイクスピア研究会、エリザベス朝研究会、日本シェイクスピア協会などで発表し、会員との意見交換を重ね、その後、研究論文にまとめるという手法をとった。更に、文化史学や経済学の分野の研究も視野に入れながら、文学研究と隣接分野を横断して収集した資料を中心にデータベースを作成し、今後この方面の研究の参考資料を提供する準備を進めてきた。

4. 研究成果

(1) 初期近代の世界貿易に関する資料及び、シェイクスピア演劇における経済関連の批評を購入、またはインターライブラリー・サービスを通して国立大学図書館・私立大学図書館から可能な限り収集した。

(2) 研究内容は部分的に、関西シェイクスピア研究会、九州シェイクスピア研究会、エリザベス朝研究会、日本シェイクスピア協会などで発表し、会員との意見交換をした。小アジアのエフェサスを舞台に展開される芝居『間違いの喜劇』を、イスラムとの経済交流という側面から分析し、「グローバル交易と『間違いの喜劇』」と題する研究として、日本シェイクスピア学会で発表した。また作品『じゃじゃ馬馴らし』の舞台となったイタリアのパドヴァに、当時のロンドンの経済状況が重ね合わされていることを論証した研究発表「『じゃじゃ馬馴らし』と16世紀の英国経済」を関西シェイクスピア研究会で行った。当時の社会の様子を知る上で、同時代のパンフレット作家トマス・デッカーの残した資料は重要であることから、デッカーの資料を調査し、日本シェイクスピア協会のセミナーに参加して、「トマス・デッカーのパンフレットを読む - 大都市ロンドンの繁栄と墮落」の発表を行った。更に研究調査を進め、『トロイラスとクレシダ』論を、関西シェイクスピア研究会で研究発表、ひき続き加筆修正したものをエリザベス朝研究会で発表し、意見交換を行った。また、当時の封建社会が商業主義に染まりいくなか、人々の労働が賃金として金銭によって売買されることに着目し、当時の召使の職業倫理を記した資料をもとに、関西シェイクスピア研究会において、「16・17世紀の社会的流動性と『十二夜』」と題する研究発表をおこなった。続いて、日本シェイクスピア協会の第60回大会において、「シェイクスピアと新経済批評」と題するパネル・ディスカッションを主催し、シェイクスピア演劇に対する経済的アプローチの方向性と妥当性について討議した。更に、科研費研究・基盤(B)の研究チームから招待講演の依頼を受けたので、「初期近代英国における娯楽としてのショッピング - 消費者の登場」と題する講演を熊本大学で行なった。令和元年4月のシェイクスピア祭(日本シェイクスピア協会・日本英文学会共催)では、「シェイクスピアとイスラム世界」の講演をおこなった。これは当時のグローバル経済を解き明かしていく上で、是非とも必要とされるイスラム教圏とシェイクスピア演劇の関係を主題とした内容のものである。

(3) 上記の研究発表はいずれも研究論文の形で、*Shakespeare Journal* (日本シェイクスピア協会)、『主流』(同志社大学英文学会)、『同志社大学英語・英文学研究』(同志社大学人文学会)、『関西シェイクスピア研究会会報』(関西シェイクスピア研究会)などの研究誌に掲載・発行されている。その他、当時の私鑄貨幣に関する調査・研究を行い、劇作品『尺には尺を』の分析を試みた。研究成果は、*Shakespeare Journal*へ、研究論文「『尺には尺を』と貨幣」と題して掲載されている。現在、(仮)『シェイクスピアとグローバル交易』と題する書物の執筆を進めており、すべての研究が整ったなら、研究書としての出版を予定している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 9件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 勝山貴之	4. 巻 8
2. 論文標題 「『尺には尺を』と貨幣」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Shakespeare Journal	6. 最初と最後の頁 23-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 勝山貴之	4. 巻 103
2. 論文標題 「『十二夜』の召使いたち－16・17世紀英国における賃金労働者－」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『同志社大学英語英文学研究』	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 勝山貴之	4. 巻 81
2. 論文標題 「Troilus and Cressidaとグローバル交易－エリザベス朝における地金主義と外国為替問題－」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『主流』	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 勝山貴之	4. 巻 100
2. 論文標題 「『空騒ぎ』と「食」のイメージ - 1590年代におけるスペイン無敵艦隊の脅威 - 」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『同志社大学英語英文学研究』	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Takayuki Katsuyama	4. 巻 57
2. 論文標題 Book Review: Andras Kisery, Hamlet's Moment: Drama and Political Knowledge in Early Modern England (Oxford University Press, 2016)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Shakespeare Studies	6. 最初と最後の頁 34-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 勝山貴之	4. 巻 99
2. 論文標題 研究ノート「トマス・デカーのパンフレットを読む - 大都市ロンドンの繁栄と墮落 - 」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『同志社大学英語英文学研究』	6. 最初と最後の頁 79 - 89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 勝山貴之	4. 巻 3
2. 論文標題 「ルネサンスとイスラム世界ー文化の越境と変容」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Shakespeare Journal	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 勝山貴之	4. 巻 98
2. 論文標題 「『じゃじゃ馬馴らし(The Taming of the Shrew)』と当世風の結婚ー16・17世紀のグローバル交易とロンドンの物質文化ー」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『同志社大学英語英文学研究』	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 勝山貴之	4. 巻 79
2. 論文標題 「グローバル交易と『間違いの喜劇』」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『主流』	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 勝山貴之
2. 発表標題 「16・17世紀イングランドにおける社会的流動性と『十二夜』」
3. 学会等名 関西シェイクスピア研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 勝山貴之
2. 発表標題 「John Speedの大英帝国地図とCymbeline」
3. 学会等名 日本英文学会九州支部大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 勝山貴之
2. 発表標題 「シェイクスピアとイスラム世界」
3. 学会等名 シェイクスピア祭 (日本シェイクスピア協会・日本英文学会共催) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 勝山貴之
2. 発表標題 「『トロイラスとクレシダ』とグローバル交易－エリザベス朝の通貨改革と為替政策－」
3. 学会等名 関西シェイクスピア研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 勝山貴之
2. 発表標題 「Troilus and Cressidaとグローバル交易－エリザベス朝における地金主義と外国為替問題－」
3. 学会等名 第38回エリザベス朝研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 勝山貴之
2. 発表標題 書評発表 David Hawkes, Shakespeare and Economic Theory (Bloomsbury, 2015)
3. 学会等名 関西シェイクスピア研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 勝山貴之
2. 発表標題 トマス・デカー・セミナー「トマス・デカーのパンフレットを読む－大都市ロンドンの繁栄と墮落」
3. 学会等名 日本シェイクスピア協会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 勝山貴之
2. 発表標題 「『空騒ぎ』とスペインのオレンジ」
3. 学会等名 日本英文学会関西支部大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 勝山貴之
2. 発表標題 「『空騒ぎ』と1590年代のイングランド」
3. 学会等名 エリザベス朝研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 勝山貴之
2. 発表標題 「グローバル交易と『間違いの喜劇』」
3. 学会等名 日本シェイクスピア学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 勝山貴之
2. 発表標題 「『じゃじゃ馬馴らし』と16世紀の英国経済」
3. 学会等名 関西シェイクスピア研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 勝山貴之
2. 発表標題 「グローバル交易と消費社会ロンドン The Taming of the Shrewをめぐって」
3. 学会等名 エリザベス朝研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 勝山貴之
2. 発表標題 「初期近代英国における娯楽としてのショッピングー消費者の登場」
3. 学会等名 科研費研究・基盤(B)「娯楽文化史から捉えるエリザベス朝演劇ー社会変化が生み出す総合エンターテイメント」研究チームと九州シェイクスピア研究会による合同研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 勝山貴之	4. 発行年 2017年
2. 出版社 英宝社	5. 総ページ数 334
3. 書名 『シェイクスピアと異教国への旅』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関